学校別の平均正答率の調査結果等データは公表することを考えておりません。公表しない理由を4つあげたいと思います。

1　この調査の最も重要な目的は、調査結果から児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育の改善に生かすことであります。教育の成果と課題を判断する1つの貴重な参考資料として、教育の改善にしっかりと生かしていくことが重要であると考えています。

2　個人が特定される可能性があるということです。

学年の児童数が極めて少ない小規模校においては、個人情報が保護できなくなるおそれがあります。

3　学校別の平均正答率を公表しても、八百津町の規模において、平均点はあまり意味をなさないと考えます。

小学校で言いますと、調査を受けた子どもの数は、多い学校でも36人、少ない学校では2人であります。平均点は、学校の規模によって大きく左右されるということです。

4　学校別データを公表することによって、このデータのみが一人歩きする可能性があります。調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一部であると考えます。

しかしながら、義務教育の大きな目的の一つは学力の定着であり、全国学力・学習状況調査の意義は大きいものと考えております。

八百津町では、昨年度実施された学力・学習状況調査の結果を受け、各学校において、実態把握・分析・指導方法の改善を行ってきました。保護者への説明も行ってきました。今年度も、同様に考えております。

問　生徒、保護者には順位などのデータを公表しているということか。

答（堀部教育長）

全国学力・学習状況調査の結果には、順位はついておりません。各学校では、すべての子ども達に対し、成績の個人表を配布しています。

順位については、中学校では実力テストを実施しており、その順位を子ども達が尋ねれば教える体制になっております。

Q2 国道418号の整備について

道路標識設置について

問　丸山トンネルの先300mほどの所に、久田見・福地方面へ行く道と、潮南方面へ行く道との交差点があるが、しっかりした道路標識がなく、運転手が困ってみえる。標識を設置すべきだと思うが、執行部の考えを伺いたい。

答（山田建設課長）

国道418号線と町道杣沢・小洞線のT字路付近には、現在潮南方面に向かって左側に標識が3カ所設置してあります。しかし、この標識は道路の路側にあり、見づらいこともあります。わかりやすくとなりますと、通称青看板と呼ばれる大きな標識になろうかと思います。県に伺ったところ、交差点の交通量と設置場所・1基200万円前後の予算が必要なので、その点がクリアできれば設置は可能だそうです。いろいろな機会で強く要望していきたいと考えております。

河村憲良議員

Q1 道徳としての食育に関して

食の大切さについて

問　昨年、学校給食に昆虫が混入した問題を契機に、異物混入に関する新たなガイドラインが制定された。従来の異物混入に対する指導では、コバエなど、人体に悪影響が少ない異物に関しては、その部分を取り除いて食べることになっていたが、現在では、一部の給食に異物が混入していることが発覚した場合、例えばスープであれば一缶丸ごと廃棄するようになっている。

しかしながら、食品ロスの観点からすると、このガイドラインに基づく措置は、道徳教育において正しいのかという危惧を抱いている。

多感な時期であり、コバエの混入に対して精神的に嫌悪感を持ってしまう生徒児童もいると思う。私は、必ずしも、残さず食べることを主張したいわけではない。しかし、私は、給食廃棄を当たり前と思う感情を子ども達に植え付けてはならないと思う。それこそ道徳教育として必要なことかと思うが、残念ながら今年度の加茂郡教育研究所主催の研修講座においても、栄養学的な食育講座はあっても、食品ロス問題を扱う食育講座は予定されていない。

食の大切さを教える事も重要であり、そのためには学校職員に対する研修の必要性を感じるが、教育長はいかがお考えか

答（堀部教育長）

ガイドラインを作成した経緯についてお話しさせていただきます。昨年、9月末にクロバネキノコバエが大量発生しました。近隣の市において、学校給食のパンにコバエが混入するという事案が発生しました。その対応について、マスコミ等で様々な意見が出まして、大騒ぎになりました。10月1日に八百津町におきましても給食のパンにコバエが混入しました。その対応として、一般の世論、県内の他校の状況を見て、パンを食べさせることを中止し、災害用の備蓄食材を代替食として提供しました。

このような中、今後の対応を考えガイドラインを改めて作成し、周知徹底を図ったわけです。保護者等にも全戸配布し、お知らせしました。虫さえ取り除けば、食べられるのではないかという意見や、虫が混入しているのは、不潔であり汚いと感じる子もいる、といった意見がある中で、誰もが給食をおいしい、楽しいと思って食べられる対応を考え、廃棄ができるだけ少なくなるようなガイドラインの作成に努めました。

具体的な対応方法については、コバエ等昆虫が混入していた場合、一つずつ分けられているパンやおかずの場合は、付着している物は食べない。一つずつ分けられていない汁物やおかずに付着していた場合、その場で付着したと考えられる場合は、その食器に盛りつけられたものは食べない。食缶に混入している場合は、そのクラスの食缶は食べずに、学校全体で補い合う事としています。現在、可茂地区62校がこの対応をとっています。

心理的な不快感を持つ子がいる以上、現段階では、今の方法が良いのではないかと考えています。

現在、学校では、学校行事や